

# 風流印字

●発行  
(株)和歌山印刷所  
〒640-8412 和歌山市狐島609-9  
TEL.073-451-4111  
FAX.073-452-2631

●発行年月日  
2018年3月1日

## ■ごあいさつ

いつもお世話になっている方も、ご無沙汰している方も、はじめましての方も、目を通していただきありがとうございます。

株式会社和歌山印刷所、通称「わいん」でございます。

さて、突然このようなものが送られてきて、きっと皆さまにおかれましては困惑されているものと存じますので、簡単に経緯の説明をば。

## ■発刊の経緯

いま読んでいただいているこちら、ニュースレターと申します。用途は種々ありますが、弊社の場合、主に社外の皆さまに向けて、社内風景・こぼれ話等を発信するためのものとお考えください。

細かい歴史は別の機会に譲るとして、私共「わいん」は、地元和歌山で70年間お仕事をさせていただくなかで、多くのおお客様とご縁を結んで参りました。ですが果たして、皆さまにどれほど「わいん」のことをお知らせできているのかと、ハタと考え込んでしまいました。

設立70年という節目に、いま一度「わいん」について知っていただく機会を増やして、皆さまとのご関係を深めるきっかけにしたいのです。

その一環として、まずは「わいん」の胸襟を開くべく、『和歌山印刷所ニュースレター 風流印字』の創刊と相成った次第でございます。

## ■タイトルの由来

馴染みない言葉かもしれませんが、「詩歌や書画などを作って楽しむこと」を意味する【風流韻事(ふうりゅういんじ)】が由来です。そこから転じて【風流印字】=「風情ある印刷物」、すなわち「興味深い記事を載せた印刷物」であることを表しています。

どうぞ「わいん」なりの「いとをかし」をご覧くださいければ幸いです。

まだまだ語りたいことはありますが、そろそろ割り当てられた紙幅が尽きそうです。最後に弊社代表取締役社長・小島治からのメッセージを載せて締めさせていただきます。

## 創刊に際して

70年といえば、赤ちゃんがシニアになり、算盤がスマートフォンになり、1円札が電子マネーになるには十分すぎる時間です。

私が入社した頃である44年前とは変わらないものもありますが、多くはすっかり様変わりしてしまいました。皆様の周りでも同じく変化があったかと思えます。

家庭用プリンターやネット印刷が台頭するなかで、いま地域の印刷会社では、どんな人たちがどんなことをしているのか。私たちの日常を切り取ってお届けしていくべく、ニュースレターを発刊いたしました。

予想通りの部分もあれば、エッ！と驚くこともあるかもしれません。

今と昔。皆様と私たち。変わらないところ、変わってしまったところ。

答えは、皆様の目でお確かめください。

そして少しでも「わいん」を身近に感じていただければ幸いです。

代表取締役社長 小島 治



風流印字(ふうりゅういんじ)「風流韻事」の造語。興味深い記事を書いた印刷物の意。

**わいわい探検隊!**  
総務課長なおやんが会社の  
インサイドをレポートします!



## ①会社正面からは見ることができない秘密基地!?

弊社事務所横を歩き、工場の音を聞きながら奥に進むと、右手にスタジオ609(制作棟)が見えてきます。それを越えた先の社用駐車場手前に、緑地帯と呼ばれるスペースがあります。以前はケナフの栽培や、サツマイモ・オクラ・

ブロッコリーなどの野菜も育てていました。

現在は従業員の休憩場所として、昼休みなどに

利用がされています。

弊社を訪問された際は是非ご覧ください。



# 印刷七転び八起き

ちよびとついで小断をひら

## 題目紙の目

ある日、弥七がプリンターとにらめっこしていた。

弥七「また止まっちゃったぞ、こんちくしょう！」

喜八「おいおい、お前さん何やってるんだ？」

弥七「聞いてくれよ、喜八。このプリンター紙が詰まって、すぐ止まっちゃうんだ」

喜八「どれ、ちよびと見せてみな。はーん、これはよお紙の目に逆らってるからじゃねえかな？」

弥七「えっ、お上(かみ)の目に逆らう？ お、おいら何も悪いことはしてねえよ」

喜八「いやいやそんな大層なことじゃなくて、この紙のことさ」

弥七「紙にも目がついてるって言うのかい？」

喜八「目と言っても繊維の向きのことさ。目の向きに平行だと流れやすくするし、交差すると引っかかりやすくなる。印刷業界では、Y(よこ)目・T(たて)目って言い方で区別している」

弥七「へー、でもどうすりゃ向きがわかるんだい？」

喜八「試しに紙を折ってみな。ピシッと折れりゃあその向きに、ガタガタになるなら紙の目に逆らってるってことさ」

弥七「こりゃ面白い！」

喜八「他にも紙の破れ方も違うのさ」

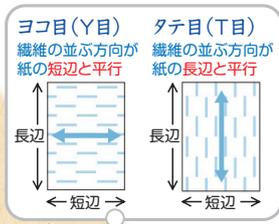
弥七「目に逆らってるって真っ直ぐ破りにくいんだな」

喜八「ところでお前さん、プリンターで何をしていたんだい？」

弥七「今度の日曜に祭りがあるんで、チラシを作ってたんだ。明日までに配らないといけないんでてんで舞いさ」

喜八「忙しいと悪いが、残念ながら日曜は雨で聞いてるぜ。紙の目はY(よこ)目・T(たて)目って言うが、お前さんは「弱り」目に「祟り」目だな」

どうもお後がよろしいようで…。



# 走れ、営業マン!!

歴史好きの昭和オヤジ、  
出口昌也(営業第2部部长:52歳)です!

NHK大河ドラマ「西郷どん」が人気ですね。過去に大河ドラマ化された、西南戦争を描いた司馬遼太郎の『翔ぶが如く』もオススメの小説です。大久保利通の命を受けて征韓論をひっくり返した伊藤博文の暗躍ぶりがスリリングです。「西郷どん」を観ながら並行して、また『翔ぶが如く』を読もうかな。読了後は、維新を経て近代国家として歩み出した明治日本を描いた『坂の上の雲』を再読ですね。



つつい間食をしてしまう  
向井友祐(営業第2部:24歳)です!

みかんで有名な有田を飛び出し、大阪のとある金融機関で働き、和歌山印刷所に入社した会社一の若手です。休日は楽器を弾いたり、マラソン大会出場のために走ったり、冬場はスノーボードと見かけによらず活動的に過ごしています。何事に対しても形から入るタイプです。そのためにウェアや靴、その他もろもろと買いますが、続かず後悔したこともしばしば……。仕事に対しては「見積もり・提案」の形を整え、一生この仕事を続けられるよう万全の状態です!



## 和歌山印刷所ニュースレター・アンケートのコーナー

今回の記事で印象に残った記事などがありましたら下記のチェックボックスにチェックを入れ、感想をご記入の上で FAX を送っていただくとクオカード (500 円分) を抽選でプレゼントいたします。(FAX/073-452-2631)

ごあいさつ わいわい探検隊 印刷七転び八起き 走れ、営業マン!!

ご意見・ご感想等 (御社名 / \_\_\_\_\_ 御氏名 / \_\_\_\_\_ )

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

## 編集後記

ニュースレター企画の立ち上げから早3ヶ月。ようやく皆さまの元へお届けすることができました。何もかもが手探りのなか始まりましたが、こうしてひとつの形を成せてホッとしています。これもすべて、アイデア出しから修正作業まで協力してくれた会社の先輩・仲間たちのおかげです。お気に召しましたら、どうぞ次月以降も私たちの記事をご覧ください。(編集長：椿原健太)